24期の結果報告など

福岡ロジテックが経営計画大会

【福岡】福岡ロジテック（永山浩二社長、福岡市宇美町）では今期、第25期目を迎えているが、これにともない7月31日には、博多にある八仙閣で、経営計画大会を開催した。

今回の大会は、コロナ禍での開催でもあり、来賓の縮小など、密を避けた開催となった。

二部制で行われた同大会では、24期の結果の報告や、今期の目標・重点方針などが示された。

24期は、単体では売上高21億7000万円となり、目標であった22億5000万円には達しなかったが、関連子会社を含めると目標を超えた。また、取扱事業の粗利率が7・46％と目標の6％を超えたほか、システムKITの荷物成約件数が、7年連続1位を達成した。

今期25期の事業計画では、「ミズヤから御水屋へ　人に喜ばれる仕事への挑戦」をスローガンに、システムKITの荷物成約8連覇に挑むほか、自社マッチングシステムの充実、次世代に向けた組織体制の整備、「ビックビジョン2026ネクスト5」プロジェクトの推進を図っていく。同プロジェクトは、次世代を担う若い社員4人によるワーキンググループを編成、そのグループの下で新しい時代の設計図を創造し、長期的な目的や使命、企業価値など、将来あるべき姿を策定、実現に向けたプロジェクト。

数値目標としては、売上高24億円、粗利1億6500万円、純利益1910万円を目指す。

重点方針としては、売り上げ目標などの数値を達成するとともに、システムKIT、ローカルネットで日本一を目指す。

第二部では、永年勤続表彰や退職金目録授与が行われ、永山社長より対象者に賞状や目録が手渡された。

小前田運輸の小前田孝社長、カワキタエキスプレスの川北辰美社長、福岡中央銀行二日市支店の今村太郎支店長らが来賓として出席、挨拶で花を添えた。

（高田直樹）

会場の様子